

建設産業委員会おでかけ委員会会議録

平成 26 年 5 月 21 日 (水)

場所 中組会所

午後 7 時 00 分 開会

【榊原伸行委員長と竹内元章氏から挨拶】

○中川健一副委員長

【資料 仮称まちづくり協議会の当面の行動計画（案）に基づき説明】

○竹内元章氏

初めての方もいますので補足します。議会のみなさんがやっているのは建設産業委員会で、今日のこの会議も建設産業委員会の会議に私ども住民が参加している。

仮称チームTというのは、住民サイドの勉強会、作業部会のような感じで、メンバーの方いろいろ声かけています。PTAの方、PTAを終えたお母さん方、地元の方中心に声をかけています。その方たちが5月はちょっと忙しいので6月くらいにチームとして動かしていきたいと思います。

そこで出た話を合同の会議で、こちらも仮称ですので名前を決めたいですが、意見交換をして、問題点や疑問点を投げかけ、話し合い、いつごろ実現するのか。すぐにやれることはすぐにやりたいですし、長期的に考えていることは長期的に考えながらやっていきたいと思っています。回数は多少多いように思いますが、みなさんのお時間の都合で、出られるときに出ていただきたいと思います。また、ぜひ参加したいという声があれば飛び込みで参加してもらってもいいと思います。地元サイドの意見をどんどん吸い上げて、問題点や疑問点を半田市にぶつきたいと思いますのでそのようにご協力いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

【加藤まり氏、鈴木康史氏について紹介】

○中川健一副委員長

当面の行動はこのように進めたいと思います。また、修正などあれば、いろいろ変わることもありますが、当面はこのように進めてよろしいでしょうか。

○柴田哲治氏

建設産業委員会は議会の公式な会議。おでかけ委員会が仮まちづくり協議会で民間、地元が合流している。民間のほうでやるのがチームT、街づくり勉強会は幅広く呼び掛ける。チームTが8月に提言して、それを受けて反映したものを建設産業委員会が中間報告で市長に答申するということですが、もう少し、チームTの位置づけを明快にしないと、他の方に説明しにくい。半田市側からしたら、好きな人が集まって作った意見ではないのかと言われかねない。もう少し規約なのか、構成メンバーなどを早急にしないと、毎回自己紹介で始まって、温度差がでて意見がまとまらないのでは、という意見です。

○中川健一副委員長

もう一回整理をさせていただきます。まずは地域住民の皆さんと、議会と行政の集合体がまちづくり協議会ということで、これが最高意思決定機関です、という考えです。建設産業委員会はそれをふまえた議会の常任委員会の議論ということだけです。我々としてはまちづ

くり協議会である程度決まったことを、議会の建設産業委員会という公的機関として市長に提言をするということがミソでして、我々議会が提言をすれば市役所はある程度無視せずにやらざるを得ないということです。考え方としては、まちづくり協議会が全体の意思決定機関ということです。チームTはワーキンググループとして一生懸命案を出していく、という考えです。

○柴田哲治氏

箇条書きや、図で説明を付けてもらおうといいと思います。

○中川健一副委員長

その他、ご意見やアイデアありますか。

【発言するものなし】

○中川健一副委員長

とりあえず、当面このように進めていくということをご了解いただき、情報の共有ができればと思います。

【本日配布の資料について確認】

○竹内元章氏

せっかく委員さんからおでかけ委員会の報告書を出していただいていますので、初めての方もいますので、ここだけは言っておきたい、やりたいということがあれば伝えていただければと思います。

○小出義一委員

これまでのお話の中でポイントだと思っている点は、やる気はあっても、空き地や空家が手つかずである状態を、商店街だけでなく地元全体の力で、「何とかしないと」という空気にしないと、前に進まないということがよくわかりました。それを可能にするのが、地元として一体となってものが言える組織を作っていくかといけない。それがまちづくり協議会だと思っています。これからこの地域だけでなく、同じような案件を抱えている地域のモデルケースにもなると思いますので、協議会を地元から立ち上げてやっていかなければならないと切実に感じています。その為の取り組みだと思っています。

○竹内元章氏

これからいろいろ話し合っていくわけですが、共通の目標をある程度定めていきたいと思っています。こういう話が出てくる中で、キーワードや重要ポイントがでてくると思います。それを1つずつ潰していけば最終的な目標になってくる気がします。

○岩田玲子委員

JR半田駅前を何とかしたいという気持ちで取り組みたいと思っています。言っているだけでなく形にしていかなければいけないと思いますが、街づくりには時間がかかりますので、少しでも進めていけるよう、長い街づくりの第1歩ということで、9月の提言があると思います。それが街並み、賑わいなどありますが、街が素敵になるよう取り組みたいです。

○沢田清委員

住んでみえる方が、ずっと住んでいける街をどうやって作るかという所が基本になると思うので、議員や役所が入っての協議会を、先ほど柴田さんが言われたようにきっちりとした

位置づけとしないと、ぼやけてしまうと思いますので、途中で終わってしまうことが無いように、今年きっちり基盤を作ることができれば、後は柱を建てていただけたと思います。その柱はみなさんの知恵を入れてもらい、僕らはできるのかできないのかの判断をしていく部分で困っていければ、やれないことはないという思いがあります。

○鈴木好美委員

ポイントは頭出しにみんなが考えてもアイデアはでない。みんなでイメージをつくってそこから考えていきたい。この空き家をなんとかしよう、というやり方もあるかもしれませんが、全体のイメージを描いて、そこから考えていく。その中で何ができるのかは議会、当局も含めて考えていくことが大切だと思っています。

○中川健一副委員長

街づくりはとにかく時間がかかるということで、今回のことはきっかけに過ぎないと思います。「JR半田駅前をこうしたい」という僕なりの意見はありますが、そこに住んでいるみなさんがどう考えているのかが、重要だと思います。できるだけみなさんのやりたい方向に進むことを応援していますので、ぜひアイデアをいただけたらと思います。

○榊原伸行委員長

議会で16年目になります。全国に視察に行き、駅前を見るとクラシィ半田のような箱ものが建っています。そこでも課題がでてきています。ぜひこのJR半田駅前は住んでいる人が中心となってやらなければいけないことだと思います。また、このプロセスが半田のモデルとなって、将来的には亀崎も成岩もやっていくことになろうかと思っていますので、住民発案で進む、このプロセスを大事にしていきたいと思っています。

○竹内元章氏

私たちはここで住んでいたり、商売をしていたりしますが、ここに来たときは中心市街地のこと、JR半田駅前のことを中心に考えていただきたいと思います。今後の進め方にも関係してきますが、住人サイドからチームなんかをつくり、問題点をいろいろ出していただき、そこから課題を導き、解決していきたいと思います。この街に何が足りないか、何が必要か、思う所はあると思いますが、言ってもしょうがないのでは、という機運もあるかもしれませんが、しかし、言わなきゃそれが解決することはありませんので、ぜひみなさんの意見を取り入れていきたいと思います。もちろん前に江口さんの言われていた、人口を増やすことが最善という考えにもあるように、住む人が増えれば商業も活発になると思いますし、コミュニティについても考えていきたいと思います。8月末までには何とかまとめていきたいと思いますので、どんどんまとめていきたいと思います。今日初めて参加するお二人の意見もあればお聞きしたいです。

○鈴木康史氏

飲み屋さん、飲食店はありますが、青山駅の方は賑やかなイメージ対し、ごちゃごちゃして、暗く感じる

○竹内元章氏

確かにこの辺の飲み屋さんは混んでいます。どういう人が来ているかというと、自分の考えですが、通勤の方なんです。地元の人が少ないということは、みんな帰ってしまう。もし、

地元の方が増えれば、もっと地元の方が滞留してくれるようになれば、賑わいのある街になり、そういう街はまた人を呼ぶ。そういう街にしたい。青山には負けたくない。安全タクシーさん社内でも聞けるのであれば、この街に何が足りないのか。プラスのことはもちろん、できたらマイナスのことも吸い上げてもらって、披露してもらおうと参考になると思います。

○加藤まり氏

地域住民が行う街づくりということで、住民代表にリサーチしている訳ではないですよ。例えば私はマンションで、90世帯くらいありますが、決してこの街が観光地になることを望んでいるという訳ではないです。高齢化もあり、年配の方も多いので。でも、街が活性化していくには観光が必要だし、そういう場所でもあります。だから、住民の意見を幅広く、一杯吸い上げてほしいと思います。それで住民一人一人にとって、この街をどうするかを自分事にしてもらおう。ここでいくら話しても変わらないと思います。私の地元の友達に主婦が多いのですが、ばんがいちに行ったことはない。豊場屋にも行ったことない。気にはなっているけれども。という人が一杯です。そういう人たちが青山まで行かずに、地元で過ごしてもらおうことでも変わると思います。蔵d e蔵のイベントでも地元の方はあまり来ないです。

○中川健一副委員長

なぜ来ないのでしょう。

○加藤まり氏

気が無いのだと思います。入ってしまえばすごく楽しいのに、遠巻きで見て、「何かやってるね」となってしまうている。

○柴田哲治氏

こういったことをワーキンググループのチームTでやっていかなければいけないと思いますが、3か月という期間なので、6月からやって人数を増やしていくということですが、一旦6月なら6月できって、7月にまた増えるとバラバラになりますので、終わりが決まっているとするのなら、意見をどんどん出してもらおうと、ジャンルごとに整頓できて、見えてくるものもあると思います。まずメンバーは切って、第1回目は思い切りみなさんに発言してもらい、それをまとめながら街づくりをどうしていくのかをまとめていく、と持っていかないと間に合わない。市役所の方でもツールがあれば教えてください。小道具なども必要かと思っています。

○竹内元章氏

実は私も今日は言わないですけども、構想を持っています。それを私の中で持ちながら、住民サイドの意見を聞いていきたいと思っています。引き受けた以上は考えています。いろんな意見があると思いますので、それを吸い上げながらやっていきたいと思っています。

○岩田玲子委員

みなさんの個々の立場からどんな街にしたいのかを聞きたいのですが。

○竹内元章氏

私の考えを簡単に言うと、赤ちゃんからじいさんばあさんまで幸福に暮らせる町です。子どもの面倒を見てくれる人が街にいて、お父さんお母さんが働いていても地域で子どもの面

倒をみられる、そういう街にしたい。おじいさんおばあさんは、仕事が終わって何するの、という時に外で活躍できる場をつくりたい。これは夢ですが駅前子ども園をつかって、駅を利用する方と住人が利用できるようにする。そこで子どもを見るのは若い人だけでなく、地域のおじいさんおばあさんも一緒に手伝って見てもらう。

また人口を増やすというのも、面積は決まっているので、面積当たりの人口が決まってくると思います。少なくとも3倍にしたいと思います。そうすると高層化も必要になると思います。駅前なので高層化すればある程度住民も増えると思いますが、そういう施設により魅力も増えれば住む人も増えると思います。若い一戸建てを望む人には一戸建てが建てられるよう整備が必要だと思いますが、ライフステージが変わってくると空家になってしまうので、そこは皆さんで考えていただき、借家制度にするのか、買い取りでも、すぐに買い手がつくような方法があるのか、アメリカのようにリフォームして住んでもらう施策など、住民が回転して一生のライフステージをここで送ってほしいと思います。

○竹本久郎氏

まずはこの辺りの住民を増やそう、それによって商店街も活性化できれば、ということですか。

○竹内元章氏

商店街の活性化は個々の店が頑張らないといけないことだと思います。人口が増えれば、ここで商売をしたいという人も増えると思います。

○江口米美氏

街づくりを商店街の活性化としてはいけない。あくまではここの街づくりであって、商店街のことは違うと思う。この街がどういう形で豊かな街になっていくのかということが前提であって、商店街、観光、街の景観はここの街づくりをやっていく中でいい結果が出た、と付いてくるものだと思います。

○竹内元章氏

本来はこちらで話したことを議員さんたちにぶつけていくことだと思います。今日はあくまでも顔を合わせていただいて、前回までの話の確認する会だと思っていただければと思います。

○柴田哲治氏

8月という時間的なものもありますので、具体的な数字を出すことは不可能、そうすると抽象的なもの、方向性を提示することになると思う。その時にはそれなりの理論武装がなされているものが提出できると思う。ある方向性の仮説を導き出すために7月は何が必要で、6月は何が必要ということをやっていかなければ、ワーキンググループは民間だけでやり、今後この会議は、地元はこう考えたよ、建設産業委員会はこう考えたよ、同じようなこと考えてたね、などと親会同士の話し合いになると思います。ワーキンググループを急いでやる。その時にテクニックが必要になると思います。6月に意見をだして8月にまとめるにはとても間に合わないなと思います。

○沢田清委員

僕らはみなさんが思っていることがあって、こうしたい、というのをぶつけていただく、

ということをイメージしています。

○江口米美氏

わかってはいるのですが。

○小出義一委員

賑わいという言葉でスタートしてしまっていたので、つついそういうものが残ってしまっていますが、ここにきて1回目話し合ったときに、それをやる為には、商店が中心ではなく、人を増やすことだということ我々も感じています。

○加藤まり氏

初歩的な質問ですが、J R半田駅前が寂れているから何とかしなければいけないということで、こういうことになっているのですか。

○竹内元章氏

半田市はここに限らず、人口も頭打ちになって、寂れてしまっている地域がある。僕らはまずここに目を付けてくれたことに感謝しなければいけないと思う。亀崎やろうよ、乙川やろうよとなっていたかもしれないが、まずは半田だ、と言ってもらえたこと。あくまでここに住んでいる人がどういう風にしたらたくさん、幸せにすんでくれるかということを考えなくてはいけない。

○加藤まり氏

ここは半田にとってすごく大事な場所。今の半田市があるのは、ここがあったからこそで、だからこそ、それを取り戻したい。蔵d e蔵も、どこでやってもいいつもりで始めたわけではなく、半田の商業、産業の発展を支えたここで、若い人を応援しながら、まずは地元の人がこの街を好きになってくれるようなイベントがしたかった。私自身が名古屋にいましたが、ここに帰ってきて、小さい時の思い出、地元に対する愛着が歳とともにどんどん大きくなっていて、そういう友達とイベントを始めています。子どもたちにとっても思い出のある街にすると帰ってくると思っています。

○柴田哲治氏

先ほど江口さんの言われた、住民というのもある側面正しいですが、この街は駅がある。市役所、病院までの動線。銀行もいくつかある。ここを利用する人の視点。完全な住居地域ではないから、住民だけでなく、そういう人の視点も含めないといけない。その為、議員さんも半田の顔はこことして、議論をしてくれている。人を増やすことはもちろんだけれども、この街に必要な機能についても議論に載せないといけないと思う。そのインフラに街の面影を残すことも大事だと思う。

○江口米美氏

住民だけでなく、商店街の人も含め、すべての人が成り立っていく街を形成していく必要があると思います。

○竹内元章氏

ワーキンググループ早速やります。市の方意見ありませんか。

○榊原市民経済部長

皆さんの意見が伝わってきました。お話にもありましたが、半田の中でここがどうあるべ

きか、というのは重要で、第1に住んでいる人が住みやすい街。第2に半田市民が誇れる街。第3に訪れたい街だと思います。私は客人をつれて、ここが半田の原点だよ、と言える街にしたいと思います。こんな機会は今までないので、地域・議会・行政と一緒に、市長がこれはすごいと言わせるような、しくみをつくり、モデルケースとしたいと思います。

○京才泰直氏

この地区に住んで見える方で、今のままがいい、触ってほしくない、という声も聞きました。水を差すわけではありませんが、先ほど加藤さんが、いろんな意見の方がみえて、いろんな地区の方のご意見を聞く場があってもいいよねという話があったので、もちろん住んでいる方が一番大切というのはわかります。自分住んでいる地区の区の役員で、市や学童保育の話をしてはいますが、思いは全然違うことを感じます。そういうマイナーの意見を吸い上げていきながら、進めることが必要だと思います。地元のワーキングも時間がありませんので、テーマやタイムスケジュールをしっかりと組んでいく必要があると思います。

閉会 午後8時24分